

レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画展

ルネサンスの爛熟期を生きたレオナルド・ダ・ヴィンチ（1452-1519年）は、しばしば万能の天才と称されてきました。彼の足跡のうち、完成された絵画作品が少ない（『受胎告知』や『岩窟の聖母』や『ラ・ジョコンダ（モナ・リザ）』を含めた17点）一方で、夥しい数のスケッチやデッサンが大半を占めています。素描を含めた、科学技術分野での探求の綴られたノートは13,000ページにも及びます。

東京大学駒場博物館（美術博物館）所蔵のレオナルドの複製画コレクションはこれらの素描をもとにしています。全部で86点を数えるパネルはユネスコによって制作され、レオナルド生誕500年（1952年）を記念して世界各地を巡業したのちに日本の地に落ち着きました。

今回の展覧会では、このユネスコ・コレクションの全体像をセクションに分けお伝えします。人物（人相学、解剖学）から自然、装置へとレオナルドの関心は広がりを見せ、おそらく「天才」の真価をここに認めることができるでしょう。

静岡文化芸術大学と東京大学駒場博物館の共同で企画された本展は、浜松と東京の2会場で開催されます。

《座っている人物のための衣襲の習作》
パリ、ルーヴル美術館
1475-1480年
（《受胎告知》のための習作）



《2人の兵士の頭部》
ブダペスト、国立美術館
1503-1504年
（《アンギアリーの戦い》のための習作）

《イザベッラ・デステの肖像》
パリ、ルーヴル美術館
1499-1500年



《聖アンナと聖母子、聖ヨハネ》
ロンドン、ナショナル・ギャラリー
1499-1500年、あるいは1508年

■ 記念シンポジウム

2010年10月15日（金）15:00~18:00 静岡文化芸術大学 176大講義室

乱反射するレオナルド・ダ・ヴィンチ

ロベルト・テッロースィ（東北大学）「謎なきレオナルド」
高田和文（静岡文化芸術大学）「ダリオ・フォーが読む《最後の晩餐》」
マルコ・マッツィ（ビデオアーティスト）
「現実の停滞 レオナルドからデュシャンに至る思考の絵画のために」（オリジナルビデオ併映）
申込は不要です。どなたでもご参加いただけます。

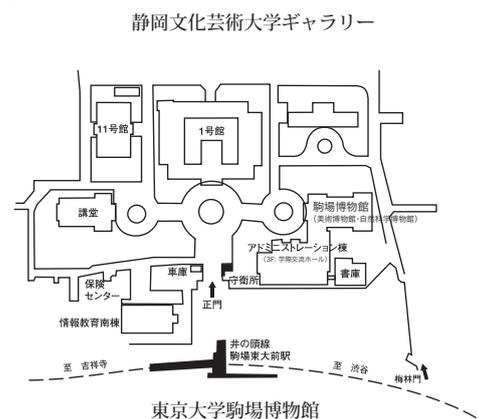
■ 静岡文化芸術大学ギャラリートーク（30分）

2010年10月17日（日）14:00 / 2010年10月26日（火）16:00

静岡文化芸術大学 <http://www.suac.ac.jp/>
〒430-8533 静岡県浜松市中区中央 2-1-1 Tel. 053-457-6113 Fax 053-457-6123

東京大学駒場博物館 <http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/>
〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 Tel. 03-5454-6139 Fax 03-5454-4929

展覧会 HP <http://sowwwt.suac.ac.jp/~leonardo/>
ブログ <http://suacleonardo.blog130.fc2.com/>



※両会場とも公共交通機関をお使い下さい。